

鹿児島島の昆虫 74 「砂浜のムシ」

昆虫担当 中峯敦子

砂浜でムシ（昆虫やその他）さがしをしてみましよう。



ヤマトマダラバッタ

写真の個体は顔面から腹にかけて白く、細かい砂模様が、周辺の砂によく呼応していました。県の絶滅危惧種で、分布も局所的です。

コウボウムギなどイネ科植物が生える砂浜を歩くとよくバッタが飛び出します。ヤマトマダラバッタは砂浜に生息しま



マダラバッタ(左：砂浜 右：草地)

前種と違い、マダラバッタは身近な畑地や草地でも見られる普通種です。色彩変異が多く、砂浜では砂に見事に同化していました。



ハマダンゴムシ

本種の分布も局所的なので、鹿児島島のどんな渚で見られるか、自由研究のテーマにしてもいいですね。

波打ち際から少し上の、流木や流れ藻の下にはハマダンゴムシがいます。冬は、深さ約 20～30 cm の砂の中

現在、日本の自然海岸、特に砂浜や干潟の面積は減少の一途をたどっています。そこに生息するムシも危機に瀕しており、積極的な保護活動を行っている地域もあります。

鹿児島島の植物 81 「渚の植物」

植物担当 久保紘史郎

渚は海水や潮風の影響を受ける過酷な環境です。そこで生育する植物は、環境に適応したいくつかの特徴を持っていますので、紹介しま

【特徴 1：葉が厚く光沢がある】

渚の土壌は保水力が乏しく、乾燥しやすくなっています。また、日照を遮るものも少ないため、水を失いやすい環境です。そこで、水を体内に蓄えておくため、厚みのある葉を付れたり、葉の表面に水の蒸発を抑える、ワックスの層を発達させたりしています。



ハマヒルガオ(ヒルガオ科)
光沢の強い葉が特徴的

【特徴 2：這うように生える】

渚は海から強い風が吹き付けるので、背の高い植物は、枝や幹が折れてしまい、生育できません。そのため、地面を這うように茎をのばすものや、地下茎を伸ばすものが多く見られます。



ハマゴウ(シソ科)

茎が地面を這うように伸びる

【特徴 3：海流によって運ばれる種子】

海辺の植物は、海水に浮く種子を作ります。種子は海流によって運ばれ、広い地域に仲間を増やしています。



渚に漂着して発芽した
メヒルギ(ヒルギ科)の種子